

“Third International Congress on Adventitious Root Formation”に参加して

	犬飼義明	1 5 1
	Third International Congress on Symbiosis (TICS) August 13-19, 2000 in Philipps-Universität in Marburg, Germany	
	柴田玲子	1 5 2
情 報	第14回根研究集会・シンポジウムのお知らせ	1 5 3
	カレンダー	1 5 5
訂 正		1 5 9
会 告		1 5 9

## 会員の皆様へ

### 1. 研究会賞

本年度の研究会学術賞には、学術奨励賞として、唐原一郎 氏（富山大学理学部）「カスパリー線の形態・発達に関する研究」、大橋善之 氏（京都府農業総合研究所）「水稻の出液速度からみた収量および品質の解析」、辻 博之 氏（北海道農業試験場）「火山灰土壌での不耕起栽培における畑作物の生育特性と根系分布」の3件、学術特別賞として、西浦芳史 氏（大阪府立大学大学院農学生命科学研究科）「接ぎ木方法と根の発達に関する研究」と荻住 昇 氏「樹木根系研究に基づく樹勢回復事業への実践活動」の2件が決まりました。学術奨励賞を受賞されました3人の方は、今まさにはつらつと研究を進めておられ、今後の研究の一層の発展が期待される方々です。また、特別賞のお2人は、確固たる基礎研究をベースにその成果を応用の場面まで引き上げるといふ、たいへん困難なお仕事で目に見える成果を出された点がとくに高く評価されました。

受賞者の方々におかれましては誠におめでとうございます。これを機にますます研究会をリードして下さるようお願い申し上げます。また、推薦や審査に関わっていただきました会員や評議員の方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。詳細はxxページをご覧ください。

### 2. 研究集会

第14回の研究集会を11月26日（日）に名古屋国際会議場において開催します。なお上記の研究会賞の受賞講演および授賞式もあわせて行います。また前日（11月25日）に谷本英一氏（研究会評議員）をオーガナイザーとしたシンポジウム（根の形態形成、成長制御、物質吸収機能の研究最前線）を開催します。研究集会とシンポジウムの参加申し込み締め切りは10月25日（水）、研究集会の発表要旨提出締め切りは11月17日（金）事務局必着となっています。詳細につきましては153ページをご覧ください。また、研

研究会ホームページでも随時お知らせしていきます。

前号でも書きましたが、とくに研究集会におきましては、完成された研究成果の発表以外に、研究途上のもの、問題提起などの発表を歓迎いたします。口頭発表の時間に余裕をもたせ、またポスターセッションも充実させ、議論の時間を十分確保できるようなプログラム編成を心がけたいと考えています。ご提案・ご要望等ありましたらぜひ事務局までお寄せ下さい。

### 3. 第6回国際根研究学会シンポジウム

組織委員会を中心に来年11月に迫ったシンポジウムの準備が着々と進んでいます。また、これまで宣伝媒体として主としてホームページを使ってきましたが (<http://www.imicom.or.jp/~jsrr/isrr/>)、それに加えて3000部印刷したファーストサーキュラーも、会員のみなさんのご協力も得つつ国内外に配布し、残り数百部になりました。これから秋の学会シーズンで宣伝していただける方はぜひ事務局までご連絡下さい。ポスターの残部もあります。また、セッションの中身やオーガナイザー、それにとまなう基調講演者や招待講演者についても具体的な検討が進んでいます。会員のみなさんからの積極的なご意見・ご提案を歓迎します。

### 4. 学術会議会員選挙

9巻1号の本欄で報告申し上げましたように、根研究会より、第18期学術会議会員候補者として第6部農学研究連絡委員会に巽二郎氏（名古屋大学大学院生命農学研究科）を申請し、さる5月22日に、学術会議講堂にて第18期会員選挙（推薦人会議）が行われました。その結果、巽氏は学術会議会員として推薦すべきものとしては決定されませんでした（最終的な任命権者は内閣総理大臣）。ご参考までに、農学研究連絡委員会では、石井龍一氏（東京大学大学院農学生命科学研究科）、奥水肇氏（明治大学農学部）、近内誠登氏（栃木県農業大学校）、日比忠明氏（東京大学大学院農学生命科学研究科）、武田元吉氏（玉川大学農学部）が推薦すべきものとして決定され任命を受け、7月22日より3年間の任期で第18期学術会議の会員を務められています。

2000年9月 会長 山内 章